

9月6日（水）その65 電子のトートーメー

私の実家は渡名喜村にあります。両親はすでに亡くなりましたので、私の兄（長男）の家族が住んでいます。渡名喜は、「しちぐわち」（お盆）、「しょうぐわち」（正月）とも旧暦でやるので、教員時代は仕事の都合でなかなか帰れませんでした。皆さん方の兄弟姉妹はお盆には実家に集まると思いますが、私たち兄弟は、なかなかそのようなことができませんでした。

一般的に沖縄のお盆は、13日のウンケーの日に、まず邪気払いのショウガ入りの「ウンケージュシー」でご先祖様をお迎えをします。14日、15日は、三度三度の食事やウチャトー（御茶湯）などで、ご先祖様を「カメラカメラ攻撃」で、もてなすのが沖縄流です。一般的にトートーメーの前のお供え物は、杖代わりの「さとうきびが2本」、魔物を追い払う「あだんの実」が2個（最近はややパイナップルやスイカになったりします）、お箸代わりに使う「ハイメドハギ」（ソーローハギ）が2本、そしてあの世のお金「ウチカビ」です。ご先祖様の住む世界は、まだ電子化はされていないようです。（笑）

15日の「ウークイ」には、ウチカビを燃やしてお見送りをしますね。

日本は明治5年12月2日までは、旧暦を使っていましたが、その翌日から新暦に変わり、明治6年・1873年1月1日になりました。県外では、そのときにお盆も新暦になりましたが、7月は何かと忙しくあまり定着せず、8月15日の「月遅れの盆」を「お盆」とするところが多かったそうです。今でも8月15日の方が、「お盆」として定着していますね。

沖縄では、盆も正月もずっと旧暦で行われてきました。しかし復帰の頃に正月は新暦に変更されましたが、お盆は旧暦のままです。なぜでしょう？

私個人の考えでは、県や市町村が正月は積極的に新暦に変えたのに、その他の「ウチナー行事」は、そのまま旧暦を認めてきたからだだと思います。「ムーチー 12.8」、「ジュウルクニチー 1.16」、「浜ウリ 3.3」、「綱曳き 6.24」、「しちぐわち（お盆） 7.15」などの行事ですね。それから「お盆はやはり満月でなくちゃ！」と、人々の生活にしみこんでいたのではないかと思います。夜中にご先祖様を「ウークイ」するときも、その後の自分たちの「お楽しみ」（例えばエイサー、綱曳き、ウスデーク、クイチャー、アンガマなど）も、夜中まで遊ぶには満月があった方が都合がいいわけです。

私は自宅の自分のパソコンの中に画像として実家のトートーメーや両親の遺影、お墓の写真などを入れてあります。仕事の都合で島に帰れないときや普段でも心が疲れたときなど、パソコンを開いて写真を見て、心の中で手を合わせます。宗教はその人が受け入れるかどうかの問題ですから、簡単には島に帰れないという私の事情が、「電子のトートーメー」や「電子のお墓参り」を認めています。また私は自分専用の鏡の横の棚に、トートーメーの写真や両親の遺影を置き、毎朝見えています。両親は私の心の中にいるのだから、自分が納得できれば、形式や習慣にはこだわらないというのが、「トートーメーをもたない私流の考え」です。

お盆などの年中行事は、実は生きていく人間のためのものです。大きな門中（むんちゅう）などでは難しいかも知れないけど、生きていく人の負担が少なくなるように改善していっても、ご先祖様は怒らないと思いますよ。

9月7日（木）その66 保育園児の富士登山と子どもの自殺のニュース

これまでの人生で初めて旧盆休みを東京で過ごしました。孫に会うだけのまったりとした「夏休み」でした。東京では毎日駅の構内を昇ったり降ったり、駅からかなり歩いたりした。先週くらいから腰の状態が良くなかったので、腰が痛くてきついでよ。沖縄人は 100m 以上は歩かないのに……（笑）

そんなときに、テレビの関東のローカルニュースを見て衝撃を受けた。「保育園児が富士登山」というニュースだった。

神奈川県の若木保育園は、「一日中身体を使って遊ぶ」というのが園の教育方針であるらしい。そしてその総仕上げに毎年5歳児が富士登山をしているという。32回目の今年も13人が参加し、全員が登頂に成功したそうだ。

あまりにもぶったまげたので、ネットで調べてみた。毎日園庭で裸足で遊んだり、毎日1時間以上裏山などで山登りをして鍛えているという。富士登山は保護者も必ず参加するが、「親は同行するが、子どもに手出しをしてはいけない。」というのが条件であるらしい。事前に手頃な山でリハーサルをするらしいが、園児よりも運動不足の保護者のための訓練であるという。

一日目は一般の方々と同じ5合目から出発して、7合目まで上り山小屋で宿泊。次の日はそこでご来光を見て、5時間半かけて頂上まで登るそうだ。

途中おなかが痛いと言いついたり、寒くて泣き出したりする子もいたが、保育士の励ましで全員が頑張りぬいて登頂できた。園児達は親と抱き合っていて泣いていたが、「涙は一番素直な感動の印」というナレーションにグッときた。……次の日私は恥ずかしながら本屋で、「百才まで歩く」（田中尚喜著・幻冬舎文庫）という本を買った。（笑）

鹿児島の保育園児が跳び箱の10段を飛ぶ画像をテレビで見たことがあるだろうか？引越しをする園児の最後の檜舞台。何度飛んでもできなくてベソをかいている。「みんな力を分けてあげて！」という先生の一言で、他の園児達がその子の周りに集まって「できる！できる！できる！」とエールを送った。すると本当に飛べたのである。感動ものだ。YouTubeで見られるので見て欲しい。おそろべし、保育園児！！

次に、新学期が始まり関東一円で中高生の自殺が相次いでいるとのニュースが目についた。8.30に台東区の中2男子、8.31渋谷区と埼玉県所沢市の高1の男子、9.1八王子市の中2女子、9.5神奈川県綾瀬市の中3男子が自殺したとのこと。内閣府が2015年に、ここ40年（1972年～2013年）の18才未満の子どもの自殺者数を発表したが、18,048人である。自殺した日にちごとに集計をとると9月1日が131人と突出しており、9月2日が94人、8月31日が92日と、9月1日前後に集中している。

原因は進路、友人、先生など複合的であろうが、夏休みの間一時収まっていたことが、新学期の始まりと共に不安が増していくのであろう。夏休みが終わる数日前から、「生きるか（学校に行くか）」、「死ぬか」で迷い続けていたのだと思う。子ども達が自分磨きをして楽しいはずの学校が、一番行きたくない場所になっているのである。なんともやりきれない。

皆さんの学校の子ども達は、素晴らしい9月1日を迎えたでしょうか？全員がそろって元気に登校できたかどうか、学校としても一番気になることであろう。教師は、2つの目を見開き2つの耳を研ぎ澄ませて、声にならない子ども達の心の奥の叫びをキャッチしてほしいものである。

9月8日（金）その67 汗水節（あしみじぶし）の教え

私は若い時に5級へき地に2度勤務した。25%のへき地手当を6年間もらった。例えば20万の給料だと25%は5万円。（5万円×12か月分×6年分）＝360万円。給与以外にこれだけ収入があった。ごつつあんです！（笑）

その後、家を作って「ン千万円」の住宅ローンを組んだり、3人の子どもの大学の教育費で苦しかったりした時代もあった。今はもう子ども達も独立してスネもかじられず、住宅ローンも完済したので両肩も軽い。（笑）

現実的な話、今の世の中お金がなければ生きていけない。

「校長講話」で、年に一度は「お金の話」をした。「収入の範囲内でお金を大切に使い、そして少しずつ貯める」ということを中学生にも教える必要があると考えたからだ。東風平中勤務の時には、八重瀬町出身の仲本稔さんの作った「汗水節」を取り上げた。「汗水節」は昭和3年・1928年に当時具志頭（ぐしちゃん）郵便局・初代局長だった仲本稔さんの詞に、作曲家の宮良長包が曲をつけたものだそうだ。働くことの喜びや大切さ、儉約して貯蓄することの大切さなどを歌っている。

2番の歌詞に、「一日に五十（ぐんじゅう）百日に五貫（ぐくわん）守てい損ねるな昔言葉」とある。一貫というのは、穴あきの銅銭千枚で、1000文（もん）のことである。「一日に50文ずつ貯めていけば、百日では50×100＝5000文で、5貫になる。そんな昔からの教えを守ってコツコツ頑張って貯めなさい」という意味でしょうか。「ちりも積もれば山となる」ということですね。収入の10～20%を貯蓄して、残りのお金を大切に使うような習慣を、今からお年玉などで練習しようと中学生に教えた。

また郷ひろみが「NEXT」という著書の中で、「例えばコップに水をちよろちよろ入れるとしよう。いっぱいになるまで飲まずに我慢する。そしていっぱいになってあふれたら、あふれた分を飲む。お金をそんな風に使う。」と書いてあった。生徒達は、お年玉などをパッと全部使ってしまう子が多いようで、このたとえ話にとても納得できたと感想に書いた子が多かった。

先週アメリカでは830億円の宝くじを当てた女性がいたが、そんなことは期待してできるものではない。やはりコツコツと節約して自分の収入から貯めていく以外に道はない。楽しんで稼ごうなんて考えてはいけない。マーフィーの法則「持っている人はさらに与えられ、持っていない人はわずかに持っているものさえ奪われる。」を心に刻み込むべきだ。

収入の範囲内で生活し、その中の一部を必ず貯蓄をする習慣は、是非身につけないといけない。宵越しの金は持たなくても生きられた江戸っ子は、遠い遠い昔の話だ。「なんくるないさ」ではなく、「なんくるならん」のが金だ。

江戸時代の井原西鶴の「日本永代蔵（にほんえいたいぐら）」という本の中に、「お金持ちになるためには、毎日『長者丸』を飲み続けなさい。」とある。長者丸というのは、「朝早く起きる」、「本業を頑張る」、「夜の時間も有効に使う」、「節約をする」、「健康に気をつけ病気になるない」この5つのことを毎日唱えて飲み込みなさい、それが長者丸だと説明しています。今の世の中でも通用することがありますね。皆さんの時代の老後は、年金制度もどうなるか……自己資金を少しでも多く貯めることが重要ですネ。